

## 情勢報告（平成28年12月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

### 担い手を確保・育成し、出荷量増大へ！～とされいほく Confidence Flower～



「産地提案型」の担い手確保・育成について説明

本山町・土佐町・大川村の花き農家で構成する「とされいほく Confidence Flower」は、11月25日に平成28年度反省会を普及所で開催しました。

農家、JA、普及所等18人が参加し、栽培や販売実績について今期の総括が行われました。普及所は技術情報の提供や県が進める「産地提案型」による担い手確保・育成について説明し、研修事業等を紹介しました。

当部会は市場評価が高く、出荷量の増大が期待されていることから、部会員からも「出荷量を増大させるには、担い手確保が必要だ」という意見が出ました。そこで、産地提案型の担い手の確保・育成に取り組むことになりました。

普及所は、当部会と担い手の受入体制や研修カリキュラム等について検討し、「産地提案書」の作成を支援していきます。

### 「山菜スタミナ漬け」の商品化に向け、試食アンケート調査を開始！



量販店での試食販売の様子

11月27日、大豊地区農漁村女性グループ研究会5人は香美市の量販店で郷土料理や農産加工品の試食販売を行いました。

同研究会は、昨年度から普及指導員や地域支援企画員などで6次産業化支援チームを組み、加工品の町外への販路開拓と新商品開発に取り組んでいます。

当日、普及所は商品化を進めている「山菜スタミナ漬け」の試食アンケート調査を行いました。試食するお客さまが少なく、調査では少人数の回答となりましたが、アンケートに答えていただいた方々からは、「美味しいので、再度購入したい」という声が多く聞かれました。

今後も試食販売と調査を重ねて、山菜スタミナ漬けの認知度を高めるとともに、お客さまからの意見を生かした商品力の向上を目指していきます。

## 米ナス産地の振興にむけて！－J A土佐れいほく米ナス部会反省会－



反省会の様子

J A土佐れいほく米ナス部会は12月2日に、反省会をJ A本山支所で開催し、生産者9人が参加しました。

普及所からは、今年の夏期の高温や秋期の曇雨天の影響により発生した苦土欠乏症や多発した黒枯病の対策を示しました。また、次年に取り組む予定の高接ぎによる土壌病対策や雨よけハウスでのダクトファンによる高温対策について説明しました。

更に、担い手の確保・育成対策として、部会での産地提案書の検討や経営改善指導状況の報告を行いました。

普及所では、次作にむけた栽培・経営指導、新しい取組の提案や紹介をしていきます。

## 伊勢川営農組合が交流イベントを開催 ～チョロギ収穫体験～



チョロギ収穫体験の様子

土佐町の伊勢川営農組合が12月4日、地区外の人との交流を目的に、チョロギの収穫体験イベントを開催しました。町内外から17人の参加者があり、伊勢川のほ場で昨年からの栽培に取り組んでいるチョロギの収穫体験、餅つき、リースづくりなどを行いました。

チョロギの収穫体験では、次々と土の中から姿を見せる不思議な形のチョロギに歓喜の声があがり、伊勢川の様々なおもてなしを満喫していました。

普及所は、チョロギの栽培指導、イベントの計画作成や開催支援を行いました。来年2月には反省会を開き、参加者からのアンケート結果や組合員の意見をもとに、来年度のチョロギの栽培計画をはじめ、今後の活動を検討していく予定です。

## トマト栽培技術向上を目指して ～根域調査を実施～



根域調査の様子

大豊町のトマト農家の組織「大豊とまと」（構成農家10戸）は12月5日、栽培終了時の根域状況を調査しました。調査は、生育状況が良く高収量の農家と生育が悪く収量が伸び悩んでいる農家の2か所で実施しました。

その結果、両農家で細根量や根の色、土の膨軟性、耕土の深さ、硬盤の位置などに違いが見られることが分かりました。

調査農家からは、「根域を初めて確認したが、今後のかん水管理等に活かしていきたい」「土づくりの重要性を再認識した」等の声がありました。

今回の調査結果は組織の反省会で報告し、今後の土づくりに生かすため、情報共有していく予定です。

## 新規就農支援と集落営農を学ぶ！



熱心に話を聞く参加者ら

12月7日、嶺北地域の農業関係機関で構成する「嶺北地域農林業振興連絡協議会」の農業部会は、須崎市のＪＡ土佐くろしおにおけるアパート式ハウスによる新規就農支援と、四万十町の集落営農法人組織（株）サンビレッジ四万十を視察し、先進的な取組を学びました。行政、農業公社、ＪＡ出資型法人の職員など15人が参加しました。

参加者からは、「新規就農でハウス栽培を希望する人にとって、貸付による就農は実践的でリスクが低く有効な手立てだ」「（株）サンビレッジ四万十では、経営事業の多角化と後継者育成など、苦労話と共に具体的な取組を聞いて参考になった」「地域を守る熱い思いが伝わった」などの声がありました。

普及所は、同協議会の事務局として、管内の関係機関に働きかけ、地域の農業振興の一助となる取組への支援を積極的に行っていきます。

## 柚子生産組合が三原村の先進事例を視察



水田に植えられた柚子を視察

12月9日に大砂子柚子生産組合12人が、三原村の柚子産地化の取組を視察しました。普及所は、視察の企画・調整を行いました。

視察目的は、現在進めている省力・軽労化と青果生産への意識を高めるためのもので、研修参加者は三原村の徹底した機械化や出荷調整の施設化などに大いに刺激を受けたようでした。

これまでの組合では、「急傾斜地でお金がかかるし、歳だから無理」といった声が大半でしたが、「山の柚子は品質がよいし、急傾斜地に応じた省力化もあるはず、地区の将来のためにも収入のあがる青果生産に取り組みたい」との声も聞かれました。既にモノレールや運搬車の導入を予定している人もおり、こうした人たちを中心に実績を積み重ね、組合全体の取組にしたいと考えています。

## ミシマサイコの安定出荷を目指して ―栽培検討会の開催―



栽培検討会の様子

12月9日、本山町漢方・薬草生産者連絡協議会及びドリームタウン大豊は、ミシマサイコの収穫及び出荷・調製作業の技術向上のため、本山町下津野地区で栽培検討会を開催し、4人の農家が参加しました。

普及所からは、動画を使い作業のポイントを説明しました。農家からは「地上部が倒伏した場合は、どうやって種を収穫するのか」「収穫した根をどのようにまとめて運んでいくのか」といった質問が出ました。

普及所は、今後もミシマサイコの収量増加と安定出荷を目指し、栽培農家を支援していきます。

## 後継者づくりにむけ、大豊町郷土料理の伝承講習会を開催！



郷土料理の伝承講習会の様子

大豊町には郷土料理がたくさんあり、大豊地区農漁村女性グループ研究会は、その伝承活動に取り組んでいます。

12月11日、同研究会のメンバー5人は、町の総合ふれあいセンターで、大豊町郷土料理の伝承講習会を開催しました。

当日は、地元の40才代の主婦を中心とした10人が参加し、地元で古くから受け継がれ次世代に残したい「銀不老寿司、こんちん、半夏だんご」など、実演を通して、調理法を指導しました。

参加者からは、「料理のポイントを知ることができて良かった」「伝承することは大事なことで、協力したい」という声があり、郷土料理の大切さを知り、同研究会の活動に協力していただける方が出てきました。

普及所は今後も、地域の財産である郷土料理の継承につながる活動を積極的に支援していきます。

## 「土佐天空の郷」お米コンテストで日本一 ～2度目の最高位に輝く～



お米コンテスト表彰式の様子

本山町特産品ブランド化推進協議会のブランド米「土佐天空の郷」（にこまる）が、「第13回お米日本一コンテスト in しずおか」で2度目の実行委員会会長賞（特別最高金賞）を受賞しました。このコンテストで最高位の賞を2回受賞した産地は無く、また今回「品種賞」もダブルで受賞し、快挙となりました。

今年は9月の登熟期以降に雨天が続き、収穫条件の悪い中での作業に苦労しましたが、普及所が協議会メンバーとともに、高品質米生産のための栽培管理に努めてきた結果が実ったものです。

普及所は、これからも高品質米の生産維持に向けた指導とブランド米の販売促進活動を支援していきます。

## 迅速な初動対応ができるよう防疫服の着脱訓練実施 ー高病原性鳥インフルエンザ防疫訓練ー



防疫服の着脱は大変

12月13、16日、中央家畜保健衛生所嶺北支所の協力を得て、普及所職員6人が参加し、高病原性鳥インフルエンザ防疫訓練を普及所で実施しました。

家畜保健衛生所の獣医師が最初にお手本を示し、続いて普及指導員が防疫服の着脱訓練を行いました。

職員からは、「防疫服の着脱の仕方がよく解った。着るよりも脱ぐのが難しい」「夏期にこの防疫服で何時間も作業は困難」「マスクのせいでゴーグルとメガネが曇って前が見えなくなりそう」といった意見がありました。

普及所は、万一の県内発生に備え、今後も迅速な初動対応ができるよう防疫訓練に取り組みます。

